

「廃食用油をバイオ燃料に」

「木の端材でおもちゃ作り」



国連が掲げる持続可能な開発目標(SDGs)を“体験”するイベントが23日、大垣市郭町の大垣公園で開かれ、企業や団体がブースを連ねて日頃取り組むSDGs関連の事業を紹介したり、遊びや販売で来場者を楽しませたりした。

(宮本寛)

大垣でSDG S学ぶ

企業や団体 35ブース出展

SDGs推進の包括連携協定を結ぶ大垣西濃信用金庫、JPコーチ&コンサルティング、東京海上日動火災保険が開いた。

木の端材でおもちゃを手作りする子どもと見学の石田仁市長＝大垣市郭町、大垣公園

企業や学校、団体が35ブースを構え、来場者を出迎えた。日本環境管理センター(海津市)は、廃食用油を回収し、環境に優しい高純度バイオディーゼル燃料にする取り組みを紹介。車のリサイクルに取り組むKMI(養老町)は、廃パーツを細分化して新たな価値へとつなぐ循環を説明、

「車の全てをリサイクルしたい」と思いを伝えた。子ども向けに木の端材でおもちゃを作る催しもあった。

ステージでは、石田仁市長や同金庫の栗田順公理事長、艷金の墨勇志社長らが登壇、連携してSDGsに取り組むことの大切さを呼びかけた。